

若葉台地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年11月1日（木）19:00～20:10
- 2 場所 若葉台地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 20名
市出席者 3名（深澤市長、綱田都市整備部長、安本地域振興局長）



4 テーマ 若葉台地区の生活環境について

5 概要

（地元あいさつ）

昨年11月28日に若葉台地区地域づくり懇談会を開催して以来、様々なご意見をいただき1年間頑張ってきた。若葉台地区は、平成6年に自治会が津ノ井から独立して25年経ち、ようやくみんなの気持ちが一つになって話し合いが進んできており、まちづくり協議会の活動も順調で、このままいけばすばらしい地域になっていくと思っている。

しかし近年、街路樹が成長しすぎたことで、家の下に根が入り込んだりといった、生活への支障が見られるため、懇談会のテーマとして設定した。鳥取市からも良い知恵をいただき、当地域を一層すばらしいものにしていきたい。

（市長あいさつ）

前回の若葉台地区地域づくり懇談会では、支え愛避難所、防災、中核市の移行等について様々なご意見をいただいた。おかげで、今年の4月に順調に中核市に移行することができた。この中核市移行を機に、さらに鳥取市が住みよいまちとなるように一生懸命頑張りたい。

地域づくり懇談会は、地域の皆さんから様々なご意見をいただき、それを今後の市政に反映していこうと開催している。今年から少し進め方を変えており、少人数で膝を交えてしっ

かり意見交換をさせていただきたいと思っている。

今日は、街路樹等の関係ということで課題をいただいている。限られた時間ではあるが、有意義な懇談会となるよう意見交換していきたい。

若葉台地区の取組みの説明

<テーマの背景>

平成元年に若葉台地区ができて今年でちょうど30年になる。美しい街路樹の街並みが評価され、平成11年度には都市景観大賞「都市景観100選」を受賞した。

しかし、年数の経過とともに街路樹が成長し、近年、根上がりによる歩道の隆起、老朽化による枝の落下、落葉による側溝のつまり、街灯が枝葉で隠れてしまう等の問題が出てきており、台風等の強風による倒木、毛虫等による健康被害も懸念される。これまで地区として管理に努めてきたが、高齢化が進み、対応に限界が来ている。

<地域の取り組み>

若葉台地区では、平成27年3月に市道の環境保全を目的とした「若葉台地区アダプトの会」をまちづくり協議会に立ち上げた。現在では、47名の会員が歩道や遊歩道の街路樹剪定、除草作業・落ち葉清掃をするとともに花壇に花の植え付け、除草・清掃作業など維持管理活動を行っている。

また、各町内会でもアダプト制度を活用し、地域の一斉清掃等を通じて地域の街並み維持保全に努めるとともに、地域住民・児童・園児が一緒になって花いっぱい運動を行い、地区の環境整備に取り組んでいる。

若葉台地区は、平成11年度に都市景観大賞「都市景観100選」を受賞したことで、素晴らしい街路樹景観を見て県内外から若葉台に移り住まれた方もいることから、地域を挙げて「緑や花のあふれる街」の景観を維持して守っていききたいと考えている。

(地元)

街路樹の整備は、専門的知識がないと難しいのではないかと思います。樹種の特性を知る市の専門部署に検討していただき、安全性と景観を満たすような街路樹計画を立てていただきたい。その内容を受け、地区で検討して整備を進めていきたいと考えている。

(市長)

平成元年に若葉台地区がまち開きをしてから30年が経過し、街路樹が成長したことで、歩道の隆起等様々な問題が出てきていることは市も承知している。一方では、都市景観大賞を受賞したということもあり、安全の確保と景観をいかに両立させるか考えないといけない。

今年の2月には、地区から高木の伐採について要望書をいただいている。専門的判断も必要で、計画的に対応をしていかなければならないと思っているが、地区内にも様々な考えが

あると思うので、地区としてどう進めていくのがいいかしっかり議論いただき、市はそれを踏まえて取り組みをしていきたい。

（都市整備部長）

専門的見地から、どういう形で樹木を維持管理していくのが良いか、またその中で市の役割は何かというご意見をいただいている。鳥取市の中で、具体的な造園技術を持つ職員は少ないため、鳥取県造園建設業協会のアドバイスをいただきながら街路樹等の維持管理を行っているのが実情である。鳥取県造園建設業協会は、街路樹等、若しくはもう少し広く緑植栽等の専門知識又は専門的知見を持ち、鳥取県においても専門家として緑化マニュアル策定等を行い、関わっている組織である。こうした専門家の力を借りながら、鳥取市、地域の皆さん、まちづくり協議会やアダプトの会の皆さんと意見交換しながら、将来的な景観に配慮しながら、どのような管理が望ましいか研究、検討していきたいと考えている。また地域の皆さんに声かけをさせていただき、意見交換の場を設けて順次検討していきたい。

（地元）

先日の強風で、枯れた松が倒れて歩道が塞がれた。倒れた箇所は対応してもらったが、他の木も倒れる危険性があるため、特に歩道沿いにある木は早急に対応願いたい。

（都市整備部長）

担当課が地元の方と一緒に現地を確認させていただきたい。

（道路課補足）

1月7日に地元の皆さんと現地確認を行いました。通行に支障がある又は倒木の危険がある樹木については、伐採等の対応を行います。今後とも、情報提供いただけましたら幸いです。

（地元）

小学校裏、住宅街を走る遊歩道の木が大きくなっているが、市が切ってくれないため、町内会で対応しているところも多くある。これまで何度お願いしても、しないわけではないがいつできるかわからないという返答ばかりである。作業中に怪我をしたこともあったが、めげずに頑張っている。町内会でも対応するが、市ももっと元気を出して対応してほしい。

それから、道路によって歩道の幅が異なっており、郵便局通りは歩道の幅が狭く、木が高くなっている。何年も伐採をお願いしており、今年ようやく伐採してもらえた。中央通りは歩道の幅が広いが、クスノキが植えてあるので、大雪が降ると木が簡単に折れる。植えてある木と歩道の幅を勘案し、今後は対応していただきたい。現状は各町内会が対応している。

また、小学校の裏にある遊歩道の木も大きくなって茂みになっている。ここは通学路になっており、不審者やイノシシ被害の危険性もある。昨年は、歩道橋付近にも木がたくさん生えているため少し切ってほしいという要望も出され、その前年には山側の木を切ってほしい

という意見も出ていた。後で確認したら、少し切ってたものの歩道としては使えないと感じた。

他に、先日の大風の影響か、遊歩道の松が倒れていた。これは対応してもらったが、近くに枯れ松がまだ3本ほどある。アダプトの会で作業はしつつもまだ大丈夫だと思っていたが倒れてしまった。

11月4日にアダプトの会で若葉台北6丁目から小学校までの遊歩道、通学路付近の剪定作業をすることになっている。市の担当課の方にも出て来てもらい、状況を見ていただきたい。

若葉台地区は9町内会あり、何年かおきにローテーションで木を見て、剪定している。住んでいる人は木が好きの方が多く、市に苦情がいくことは恐びなく思っているため、地区で住民の皆さんに了解を得る努力を今後も強くしていきたいと思う。また、木を切るばかりではなく、皆で十分に協議をしながら木を残すという選択肢も考えていきたい。次世代の若い方々が、アダプト活動に出て、木を切ってくれるとは思えない。地区でもアダプト活動を一生懸命やっているが、市も地区ばかりに頼るのではなく、もっと前向きに行動していただき、きれいなまちだと自慢できるようにしたい。町内会の要望が多いから剪定をしたということではなく、等しく状況を確認し、問題に対処していただきたい。

(市長)

十分でなかったところも多々あったかと思うが、市も前向きに現場を確認したい。市道関係の多くは道路課が担当課になる。地域の皆さまと一緒に個別に確認させていただき、特に危険な作業が必要な場合は市から専門業者に依頼したい。要望が多い箇所ばかりを対応するのではなく、地域全体で計画的に剪定や管理を行う必要がある。しっかり地域の皆さんのご理解をいただきながら、木を切る、緑を維持していく検討をし、すばらしいまちであり続けるように取り組んでいきたい。

(都市整備部長)

地域の皆さんの声をもう少し丁寧にお聞きする必要があると感じた。まずは、地域の皆さんと一緒に現地を確認させていただき、将来を見据えた緑豊かなまちに資するよう、樹木管理ということも含め一緒に考えていきたい。必要があれば、対症的な管理方法だけでなく、将来を見据えて何をすべきか研究、検討を進めていきたい。

(道路課補足)

11月7日に地域の皆さんと1回目の現地確認を行いました。今後、街路樹の管理について、学識経験者などのアドバイスを受けながら、地域の皆さんと協議し、計画づくりの研究、検討を進めていきます。

(地元)

郵便局通りには道路のへこみがたくさんあり、道路課にその都度連絡をとって対応しても

らっている。しかし、予算の都合上、年間5つか6つ直せば予算がなくなり、次年度の話となってしまう。大きく修繕スケジュールを立て、いつ、どういう風に、どういう方法で、地域住民も協力して行う必要があるのかなど教えていただきたい。郵便局通りは歩道が狭く、けがをしないか心配である。

街路樹の剪定についても、道路課とその都度打合せをして行っているが、一度まち全体の整備計画を立て、時期、方向性を早めに示していただきたい。通りによって樹種も違うので一律に調整はできないと思う。今は対症療法しかできていないが、もう少し踏み込んで対応していただきたい。

また、道路課の担当職員が交代すると、前に打ち合わせしていたことはできなくなることもある。

(市長)

担当者が交代しても一からにならないよう、引継ぎをしっかりとやらなければならない。

また、緊急に必要な場合は個別に対症療法を行っていくことも必要であるが、併せて年次の計画でこのまち全体の樹木をどうするかという視点も非常に大切だと思う。津ノ井ニュータウンは樹種等も通りによって異なり、自然の景観と調和した未来のまちづくりという考え方によってできたまち並みである。地区ができてから30年が経過したことを契機に、一度整理して考えていく必要があると思う。広いエリアなのですぐにはできないかもしれないが、専門家の意見もいただきながら、また地域の皆さんの意見も伺いながら進めていきたい。

(地元)

鳥取市の公園を20か所ほど見たが、手入れの仕方は様々である。今、若葉台では、樹木が邪魔になるかどうかという点ばかり問題として出ているが、日陰ができて涼しいという良い面もあると思う。悪いことばかりでなく良いことも大切にし、メリット、デメリットの整合性を持たせた形で樹木を育てていくのが良いのではないかな。

ただ、例えばケヤキの大きな根が下水の邪魔をし、対処に10万円かかったという話を聞くと、木を置いておきたいと無理に言いづらい。きれいなまちであることを大切にしながら、整合性を考え、良い方向にできないかと思っている。

また、アダプト活動で環境大学の入り口から焼肉工房パオの方まで草を刈っているが、植え込み中に生えるカヤの処理方法がわからない。何か良い方法がないだろうか。

(市長)

カヤについては、どういう特性があってどういう対応をしたら良いのか研究したい。

樹木があると心が安らいで豊かになる。最近は猛暑が続いているので木陰は涼しく心地よいなどメリットも多くあると思う。一方で、根が下水管の邪魔をしたり、歩道が持ち上がった等デメリットもある。難しいがメリット、デメリットをどう調和させていくか考えていけないといけない。地域の皆さまの考えをしっかりと受け止め、計画的に取組みをしていきたい。

い。

（道路課補足）

カヤについては、前述した街路樹管理の計画づくりと併せて、地域の皆さんと協議しながら、対処方法の検討を進めていきます。

（地元）

先ほど松が倒れていたと話があったが、前々回のアダプト活動の際に、倒れた松のほかにも枯れた木があり危ないため早く対応して欲しいと道路課に伝え、写真を撮って帰ってもらっている。それから10日以上経っているがまだ対応してもらえていない。対応が遅いのではないか。もう少し真剣に考えて欲しい。

地区のアダプトの会の活動を直線距離にすると約3kmある。その中で法面の草刈り等もしているが、道路課だけでなく、林務水産課も歩道に出ている枝を刈りこんで欲しい。

もう一点、街路樹の枝切りをしたことで木が枯れた場合、補償という話が出ないのか。昔その関係で揉めたことがあるため、確認しておきたい。

（市長）

枯れた松の木を現地確認した後、10日以上経ったがまだ対応していないということについては大変申し訳ない。できる限り早く対応させていただきたい。

法面の草刈りについては、場所によっては道路課だけではなく林務水産課の部分もあろうかと思うので、連携してしっかり対応したい。

また、樹種によっては剪定したことで枯れてしまうということもあるかと思うが、これは専門家に対応していただかないと難しい。本来行政が対応しないといけないところをアダプトの会で対応いただいているため、仮に剪定によって木が枯れた場合でもアダプトの会に責任がいくことはないとお答えさせていただきたい。

（都市整備部長）

事例として、造園建設業協会の方にボランティアで袋川桜土手の樹木剪定作業等をしていただいている。その際、切った枯れ枝には薬剤を塗り傷口を保護しておられる。

高木の剪定等、危険が伴う作業は、市が役割を担っていくべきではないかと思う。地域の皆さんには大変お世話になっており、危険な作業も自ら進んでやっていただいていることに感謝申し上げるが、役割分担も必要であるので、また話をさせていただきたい。

（道路課補足）

11月2日に、地元の方に造園業者への伐採依頼を準備中である旨を報告させていただき、11月7日の地元の皆さんとの現地確認時に、再度伐採本数等を確認し追加されたものと併せて造園業者に作業依頼しました。その後11月21日に伐採作業を完了しました。

(地元)

若葉台南3丁目のイチョウの木が大きくなっているが、市が満足な対応をしてくれないため、地区で今年の3月25日に切った。その際怪我人が出て少し腰が引ける思いがしているが、それでも気持ちを持ち直して続けている。

地区全体としてこれからも共同作業で取組んでいきたいと思っているが、市もここで聞いて帰って終わりではなく、前向きに行動してもらいたい。協働の取組みとはいっても全て地区がアダプト活動で対応している状況である。少なくとも来年度からは、市もこれまで以上に前に出て、地区と一緒に取組んで欲しい。

(市長)

お話を伺って持ち帰った場合は、担当課を中心に検討し、できるだけ早く対応させていただくことが大切である。予算を伴う場合はすぐには難しい場合もあるが、その場合は理由を説明し、ご理解をいただくことも併せて必要である。

若葉台地区は平成元年のまち開き以降30年が経過し、樹木も大きく成長している。通りごとの樹種や間隔等、様々なことについて地区全体の現状を総合的に確認し、今後どうあるべきか計画的にやっていかないといけない時期に来ていると考えているので、個別の緊急性のある部分の対応と併せて研究させていただきたい。できる限り前に出るということは職員にも日々言っており、その気持ちを忘れないようにしたい。

(地元)

アダプト活動で春と秋に若葉台地区内から環境大学前あたりまで植栽の刈り込みをやっているが、環境大学前あたりからヨネザワサイクル付近までが未処理で残ってしまう。アダプト活動の作業時期にできるだけ併せて市も作業していただけると景観が良くなると思うので検討していただきたい。

(都市整備部長)

業者に委託してやっている作業を、できるだけ地域の作業時期に合わせて行うよう調整を検討したい。

(道路課補足)

作業実施時期を合わせるよう、アダプトの会の皆さんと連絡・調整をしながら準備します。

(地元)

若葉台地区を取り巻いている山裾の伐採をしてほしいという話もよく出てくる。現実問題、山から流れてくる土砂と葉で側溝が埋まってしまう。一斉清掃の際に掃除をしようとしているが難しい状況であるので、林務水産課に何回かお話しをし、森林組合に頼んでいただき切っていたいただいた経過もある。道路課に話を聞くと、そこは林務水産課の所管だという事

である。

近年は集中豪雨が増えている。何年か前にはマンホールから水が噴き出しているのを見た事があるが、これも樹木の関係で雨水の排水路が狂ったことが原因ではないかと考えている。確認していただいた道路課の方は問題はないだろうと言っていたが、やはり山、樹木が関係しているのではと思うので、安全・安心の面、里山の景観という面からも検討していただきたい。

（市長）

場所によっては、道路課だけでなく林務水産課や環境下水道部の担当部分もあるかと思う。山裾付近の側溝が埋まるということであれば対応する必要があるので、現地を確認させていただきたい。

また、今年は7月豪雨があったり台風が何回も襲来したりと、今までにない降り方をすることが増えている。下水の処理能力以上の雨が降ったような状況もあったのかもしれないが、しっかりと3つの部署が連携をしながら対応していきたい。

（林務水産課補足）

11月7日に若葉台役員の方々と、林務水産課・道路課・都市環境課の担当による現地確認を行いました。現地で指摘を受けた樹木については、優先順位をつけて順次伐採を行います。

（地元）

特別養護老人ホームの下にある側溝はイノシシが土を落とすため埋まってしまっていたが、先日確認したら簡単なフェンスを張っていただいていた。費用もかかると思うが、こうした対策をしていただいたらイノシシが側溝に与える影響も違ってくると思う。個別の案件は上げればきりが無いが、まず地区全体を歩いて見ていただきたい。

（市長）

地域と状況を確認しながら進めていきたい。

（農業振興課補足）

市ではイノシシ等による鳥獣被害を防止するため、侵入防止対策及び捕獲対策を進めています。地区内のイノシシによる被害状況を確認しましたが、当地区においては、柵の設置による住宅地等への侵入防止対策が効果的と考えます。

町内会等でワイヤーメッシュ柵等を設置する際は、資材費の1/2を補助する制度もありますのでご検討ください。また、捕獲用の檻の設置などについても、農業振興課へご相談ください。

(地元)

若葉台地区多目的広場の木が裾刈りと称して大伐採されたため、今年の大雨の時に、奥の駐車場と広場が大洪水になり、道路を流れるほどの氾濫になった。この伐採事業はまだ2年間あると聞いているが、即刻中止してほしいと要望を出している。趣旨に沿っての計画であれば枯れた樹木を伐採するはずだが、健全な樹木を伐採している状況なので確認していただきたい。

(市長)

要望をいただいていることは承知している。地域の皆さんの意に反して伐採すべきでないところを伐採したということだと思う。担当の林務水産課から確認させていただきたい。本来の事業の趣旨に沿った取組みをしてもらうようお願いをしていかなければいけない。

(林務水産課補足)

若葉台地区多目的広場奥の山林における「若葉台里山塾」による活動については、その内容が地元の意志と相違があることから、今後の活動については地元と十分協議したうえでなければ実施の許可をしないようにとの要望をいただいています。11月5日に地元役員と協議させていただいた結果、市の所有山林における今後の事業については、事業実施に先立ち地元へ報告協議を行うこととしました。

(市長あいさつ)

様々なご意見、ご要望をいただいた。伺ったことはそれっきりにならないよう、具体的に動いていきたい。

若葉台地区の樹木の問題は、まち開きから年数が経過すると様々な形で対応が必要になるのではと思っていたところである。このあたりで地区全体の計画的な取組みをどうするか整理しながら、皆さんと一緒に取組ませていただきたい。

この津ノ井ニュータウンは、当時の金田市長のもと、新しいまちづくりを進めていこうという思いで取組んできた事業であり、住んで良かったと思える、他の地区にないすばらしい自然と景観と調和したまちである。街路樹等についても、皆さんと一緒に考え、景観と安全の確保が両立するように取組んでいきたい。